

官報

號外

明治三十二年一月二十日

金曜日

印刷局

第十三回 貴族院議事速記録第十三號

明治三十二年一月十九日(水曜日)午前十時二十六分開議

議事日程 第十三號 明治三十二年一月十九日

午前十時開議

第一 侯爵徳川義禮君、男爵安場保和君、八阪甚八君請暇

第二 著作權法案(政府提出) 第一讀會

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第四 特許法案(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第六 意匠法案(政府提出) 第一讀會

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第二讀會

第八 商標法案(政府提出) 第二讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十 精神病者監護法案(政府提出) 第一讀會

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十二 事業公債及鐵道公債特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十四 債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十六 債金特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十八 明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案 第一讀會

第十九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第二十 造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第二十二 葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案 第一讀會

第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第二十四 北海道官設鐵道用品資金會計法案(政府提出) 第一讀會

第二十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第二十六 作業會計法中改正法律案(製鐵所)(政府提出) 第一讀會

第二十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第二十八 作業會計法中改正法律案(專賣局)(政府提出) 第一讀會

第二十九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

○議長(公爵近衛篤磨君) 一昨十七日眞宮殿下ノ御葬送ニ附キマシテ議員ヲ代表シテ御會葬致シマシテゴザイマス、此段御報告ニ及ビマス

○渡邊洪基君 議長 渡邊君ハ何デスカ

○渡邊洪基君 特別委員會ヲ開クタメ退席致シタウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 少シ定足數ニ缺ケルカト思ヒマスカラ暫ク御見合セテ願ヒマス、是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀) 去十四日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

郵便條例中改正法律案

供託法案 同日本院ニ於テ可決シタル古墳墓保存ノ建議書ハ即日政府ニ呈出シタリ

去十六日左ノ政府提出案ヲ受領シタリ

特許法案

意匠法案

商標法案

精神病者監護法案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領シタリ

葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案

事業公債及鐵道公債特別會計法案

債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案

債金特別會計法中改正法律案

明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案

造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案

北海道官設鐵道用品資金會計法案

作業會計法中改正法律案(製鐵所)

作業會計法中改正法律案(專賣局)

昨十八日衆議院ヨリ政府提出北海道舊土人保護法案ヲ受領シタリ

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル政府提出官吏遺族扶助法中改正法律案ヲ可決奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領シタリ

各委員長副委員長左ノ適當選セラレタリ
商法修正案特別委員會

委員長 侯爵黑田 長成君 副委員長 子爵曾我 祐準君
銀行條例中改正法律案外一件特別委員會

委員長 伯爵正親町實正君 副委員長 男爵小澤 武雄君
刑事訴訟法中改正法律案外一件特別委員會
委員長 子爵谷 干城君 副委員長 三好 退藏君

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、第一、侯爵德川義禮君疾病ニ附キ四週間、男爵安場保和君疾病ニ附キ三週間、八坂甚八君疾病ニ附キ五週間ノ請暇ヲ願出テ、アリマス、御異議ガナクバ許可致シマス
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 著作權法案政府提出第一讀會

(小原書記官朗讀)

著作權法案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十二年一月十三日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
內務大臣 侯爵西鄉從道

著作權法案

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第二章 偽作

第三章 罰則

第四章 附則

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖書彫刻模型寫真其ノ他文學科學若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文學科學ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ演劇脚本、淨瑠璃脚本、能樂脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得
第三條 著作權ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條

ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ヲツツ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス
一 法律命令及官公文書

二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事

三 公開セル裁判所議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條 著作權者ハ著作權ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得
發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ偽作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作權ノ同意ナクシテ其ノ著作權者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條 原著物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作權ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文學科學ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文學科學ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 外國人ノ著作權ニ付テハ著作權保護ニ關スル條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス

第二章 僞作

第二十八條 著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第二十九條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製ス

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節錄引用スルコト

第三 文學科學ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル演劇脚本、淨瑠璃脚本、能樂脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第四 文學科學ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文學科學ノ著作物ヲ挿入スルコト

第五 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十一條 善意且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十二條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作權者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル演劇脚本、淨瑠璃脚本、能樂脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

著作權者ノ氏名ヲ顯ハサルコトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

第三十四條 僞作ニ關シ民事ノ訴訟又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章 罰則

第三十五條 僞作ヲ爲シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者及僞作ノ所爲ヲ幫助シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十條及第二十九條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セシメテ複製シタル者並第三十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 著作權者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 虛偽ノ登錄ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者、頒布者及輸入者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十二條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十六條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第三十八條乃至第四十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十五條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十六條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十七條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後五年間發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第四十八條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第四十九條 第四十六條乃至第四十八條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

第五十條 本法ハ建築物ニ適用セス

(政府委員松平正直君演壇ニ登ル)

ヲ希望スルタメニ此著作權法ノ法律案ヲ提出ニナリマシタ次第アリマス、ドウゾ宜シク御贊同下サルコトヲ希望致シマス

○子爵稻垣太祥君 政府委員ニチヨット伺ヒマスガ第一條ノ美術ノ範圍、是ハ一體美術品ト意匠品トノ議論ガゴザイマスガ美術ノ範圍ハドウ云フ範圍ノ定メ方ニシマス、ソレカラ第三條デゴザイマス、是ハ著作者ノ權限ニ附イテ死後三十年間繼續スト云フコトガアリマス、ソレカラ第十條ニ「繼續ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス」トアリマス、是ハ死後三十年間繼續スト云フノハ繼續人ノナイ場合デアリマスルカ相續人ガアツテモ矢張死後三十年間繼續スル、ソレカラ先キハ著作權ハナイノデアリマス、ソレカラ第七條ノ第二項デアリマス「前項ノ期間内ニ著作者」云々是ハ全文ノ御講釋ヲ伺ヒタウゴザイマス、ソレカラ第八條其他ニモゴザイマスルガ「每號發行ノトキヨリ起算ス」ト云フノハ是ハ年ヨリ起算ストカ日ヨリトカ直サレタイヤウデアリマスガサウ直シテハ差支ガアリマス、其邊ヲ伺ヒマス

(政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(水野鍊太郎君) 唯今ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ此美術ノ範圍ト申シマスルノハ、工業上ノコトニハ適用シナイ、工業上ノコトデ其コトガ意匠ニ關スルコトデアリマスレバ意匠法ノ方デ保護スルコトニナリマセウト思ヒマス、著作權法ノ範圍デ保護致シマスル美術品ト云フノハ工業品以外ノモノニ限ルノデゴザイマス、ソレカラ……

○子爵稻垣太祥君 美術品ト工藝品トノ區別ハドウ云フ範圍デ定メマスカ

○政府委員(水野鍊太郎君) 工業上ノ目的ニ使用スルヤ否ヤト云フコトニ依ッテ區別スルト思ヒマス、ソレカラ第二ノ御質問ノ第三條ニ死後三十年間繼續スルコトアツテ第十條デゴザイマシタカ相續人ナキ場合ニ於テハ著作權ハ消滅ストゴザイマス、第三條ノ場合ハ相續人ノアル場合デアリマス、相續人ノアル場合ニ著作權ト云フモノハ著作人ノ死後三十年間繼續ク即チ相續人ノ利益ノタメニ三十年間繼續ク、全ク相續人ガナイ場合ニハ著作者ノ死亡スルト同時ニ消滅シテシマフト云フコトガ第十條ニ規定シデアリマス

○子爵稻垣太祥君 相續人ト云フコトハ民法ニ云フ其家ノ相續人デナク或ハ他人デモ權利ヲ相續スルコトニナリマス

○政府委員(水野鍊太郎君) 詰リ財產ノ相續デゴザイマス、著作權ト云フノハ一ツノ財產權デ財產デアリマス、ソレカラ其次ノ御質問ハ第八條デゴザイマス「每冊若ハ每號發行ノトキ」トアル……

○子爵稻垣太祥君 第七條ノ第二項デス

○政府委員(水野鍊太郎君) 是ハ第七條ノ第一項ハ原著作物發行ノトキカラ十年内ニ翻譯物ヲ發行シマスレバ翻譯スル權利ガアルト云フコトガ第一項デアリマス、其十年期間内ニ著作權者ガ保護ヲ受ケントスル國語デアリマス、翻譯ハ色々英語ニ翻譯スルモノモゴザイマス、佛語ニ翻譯スルモノモゴザイマス、獨逸語ニ翻譯スルモノモアリマス、其保護ヲ受ケントシ例ハ英語ナラ英語ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シマスルト英語ニ翻譯スル權利ダケハ……發行シタトキニハ翻譯權ハ消滅シナイ、ソレハドレダケ續クカ第三條ニ據リマシテ著作者ノ生存間及死後三十年間繼續クノデ其以外ノ

モノデモ獨逸語トカ佛蘭西語トカ云フモノハ第一項ニ據テ十年内ニ發行シ
ナイト翻譯權ハ消ヘテシマフ、サウ云フ趣意デアリマス、ソレカラ第八條ガ其
次ノ御問デアッタト思ヒマス「毎冊若ハ每號發行ノトキ」トアルノハ日トカ何
トカナリマシタラ宜イデハナイカト云フヤウナ御質問ニ同ヒマシタガ御尤ナ
御問デアリマスルガ第九條ニ其コトハ規定シテアリマスノデゴザイマス、其
發行ノトキト云フノハ何時カラカト云フト「前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期
間ヲ計算スルニハ著作死ニ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年
ヨリ起算ス」丁度今仰シヤッタヤウナ發行シタルトキト云フコトハ九條ノ說明
シテ其年ノ翌年カラ勘定スルコトニナッテ居リマスカラ唯今ノ御疑ハ第九條
ノ規定ヲ明ニナルコト、思ヒマス

○名村泰藏君 チョット政府委員ヘ御尋シマス此法案ガ通過シマシテ發布ニ
ナリマスルト現行ノ出版法ハト云フモノハ廢セラレタル譯ニナリマス、現行
ノ出版法ニハ禁制ノ箇條ガ澤山アリマス、又ソレニ對スル罰則モアリマスガ
此法案ニ其邊ノ所ガ見エテ居リマセヌガ廢止ノ後ニハドウ云フ御都合ニナリ
マスデアリマセウカ、チヨット御尋致シマス

○政府委員(水野鍊太郎君) 御答致シマス、唯今ノ御問ハチヨット分リマセ
ヌデアリマシタガ此法律ガ施行ニナッテモ出版法ハ廢セラレヌデアリマ
ス、版權法ハ廢止スルコトニナリマスルガ出版法ハ矢張出版スル取締ハ從前
通現行ノ出版法デ致スコトニナリマス

○名村泰藏君 サウデスカ、分リマシタ

○伊澤修二君 本員モチヨット質問シタウゴザイマス 第一條ノ第二項ノ所
ニゴザイマス「文學科學ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ演劇脚本、淨瑠
璃脚本、能樂脚本、及樂譜ニ云々トアリマス」此樂譜ト云フノハ能樂脚本ノ
樂譜ト云フ意味デアリマス、或ハ其樂譜ト云フノハ單獨ニナッテ居ルノデ
アルカト云フコトヲ同ヒタイ

○政府委員(水野鍊太郎君) ソレハ樂譜及ヒト云フノハ皆前カラ續クノデ演
劇脚本淨瑠璃脚本、能樂脚本ト云フヤウニ單獨デハナイ、前カラズツ續ク
ノデス

○伊澤修二君 ソレニ附イテ伺ヒタイノデスカ、茲ニ其西洋ノ歌曲ノ樂譜ト
云フモノハ含ンデ居ラナイノデスカ

○政府委員(水野鍊太郎君) ソレハ含ンデ居ル積デゴザイマス

○伊澤修二君 ケレドモ唯今ノ御說明ニ依ルト演劇脚本、淨瑠璃脚本、能樂
脚本トアッテ其中ニ文字ガ見エナイヤウデアアルガドウデアリマス

○政府委員(水野鍊太郎君) ソレハ樂譜ト云フ廣イ言葉ノ中ニ含マスコトガ
出來ルデアラウト云フノデ今ノ西洋ノ歌曲ノ樂譜ト云フコトハ明言ハ致シマ
セヌガ勿論樂譜ト云フ中ニ這入ルデアラウト云フ趣意デアッタノデゴザイマ
ス

○伊澤修二君 ソレ故私ハ前ニ御尋シタノデ……ソレデハ宜シウゴザイマ
ス

○渡邊洪基君 所得稅特別委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ退席ヲ御許ヲ願
ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 唯今ハ宜カラウト思ヒマス

○加藤弘之君 チヨット質問致シマス分ラヌコトハ澤山アリマスガ此處デ一
一聞クハ煩ハシウゴザイマスカラ省キマスガ先刻名村君ノ問ハレタコトモ私
ガ御聞キ申シタイト思ッテ居リマシタガ其答デ分リマシタ、併ナガラ出版法
ト云フモノハ少シモ差支ナイデスカ如何デスカ、出版法ヲ其儘ニナスッテ置
イテ利害ハナイノデスカ、之ヲモウ一度委シク……

○政府委員(水野鍊太郎君) 唯今ノ加藤君ノ御問ニ御答ヘ致シマス、出版
法ノ方ハ全ク警察ノ取締デゴザイマシテ出版ノ取締ノコトニ對シマシテハ條
約デ以テ少モ制限サレテ居ラヌノデゴザイマス、ソレデゴザイマスルカラシ
テ出版法ハ現行ノ儘デ置イテ差支ナイノデゴザイマス

○加藤弘之君 ソレカラモウ一ツ……此版權法ヲ廢シテ之ガ代リニ出來タト
云フノハ則チ改正條約實施ノタメニ出來タ、唯ソレダケノ意味デアラタト云
フ趣意デアアルカラ此版權法ガ外國ノ關係ナクシテ不都合ガアッテイケナイ
カラ變ヘタト云フ所ノ意味ハ少モナイ、唯外國ノ關係ノモノコトニ附イテ
變ヘタバカリデゴザイマス、ソレニ關セズ今日ノ版權法ハ或ハ不都合ガア
ル不足ノ所ノアルト云フ云フ意味ハ少モ加ッテ居ラヌノデゴザイマス

○政府委員(水野鍊太郎君) ソレハ先ヅ第一ニ外國ノ同盟條約ニ這入リマス
ルカラ此現行ノ版權法ヲ改正シナケレバナラヌト云フノガ第一ノ趣旨デハゴ
ザイマスルガソレト同時ニ現行ノ版權法中ニモ不都合ナ點ガゴザイマシテ例
ヘバ今日デバ版權法ト云フモノト、寫真版權條例ト脚本樂譜條例ト云フモノ
ガ別ニニナッテ居リマスルシ致シマスルノデサウ云フヤウナモノモ同時ニ單
獨ニ法律トスルコトガ便宜ト認メマシタカラシテ外國同盟條約ニ這入ッテ此
法律ヲ改正スル必要ガアリマスルカラシテ同時ニソレ等ノ點ヲ調ベマシテ
改正ヲ致シタ譯デゴザイマス

○加藤弘之君 サウ云フ所ノコトカラ改正ニナッタノデスカ、唯一ツニ纏メ
タト云フノデゴザイマス

○政府委員(水野鍊太郎君) 左様、事柄ノ點ハ餘計ゴザイマセヌ現行法上ノ
文書圖書ダケシカ保護シテ居リマセヌ、今度ノ法律ニ依ッテ彫刻、模型サウ云
フモノモ保護スルノデ、事柄ノ大體ハ現行法ト餘計ハ違ハヌノデゴザイマス

○加藤弘之君 サウスルト即チ今日ノ版權法ハ別ニ事柄ニ於テハ不足ナコト
トカ或ハ不都合ナコト、云フヤウナモノハ凡ソナイト云フ御考デアアルノデス
カ

○政府委員(水野鍊太郎君) 同盟ニ這入リマセヌナラバ餘計ニ不都合ハナカ
ラウト思ヒマス

○加藤弘之君 サウスルト此中ニ少モ同盟ニ這入ラズレテ序ニ是マデノ内國
バカリデアッテモ不都合デアッタト云フ箇條ハ少モ含ンデ居ラヌノデスカ
○政府委員(水野鍊太郎君) 少モト云フト少シ困リマス、ソレハ無論含ンデ
居リマス、例ヘバ版權ノ年限杯モ少シ増シタイト云フ考モアリマス、今ノ法
律ノ解釋杯モ大分困ル點ガアッテ、サウ云フ點モ明瞭ニシテ置ク方ガ宜イト云
フノデ現行法ニハ少モ差支ナイカト云フコトハ言ヘナイ、サウ云フ點モ參酌
シテ改正ヲシテ……

○加藤弘之君 ソレデ分リマシタガ序ナガラト云フコトデ内國バカリデハ澤
山ナ不都合ガアルト云フ御考ハ今日ノ版權法デハナイノデスカ

○政府委員(水野鍊太郎君) ソレハサウ申シテ宜シウゴザイマス

○加藤弘之君 僅ナコトデアリマスナ

○政府委員(水野鍊太郎君) サウデス

○議長(公爵近衛篤磨君) モウ御質問モゴザイマセヌカ

○久保田讓君 私ハ此大體ニ附イテ一ツ質問致シタイト思ヒマス、理由書ニ依リマス「改正條約ノ實施以前ニ於テ列國版權同盟條約ニ加盟スヘキヲ以テ勢ヒ現行版權法ヲ改正セサルヘカラス」トアルノデゴザイマス、是ハ條約ノ實施ニ伴フノ版權同盟條約ニ加盟スル故ニ是ハ改正スルト云フコトデア

ルノデ、之ヲ改正スル原因ニ附イテ國ノ利害得失ト云フヤウナコトニ關係ガ大ニアラウト思ヒマスガ其事ニ附イテ大體同ヒタイノデゴザイマス、今帝國ノ文運ノ有様ハ大ニ進歩シテ參ゾテ學術技術共ニ觀ルベキモノガアルノデゴザイマス、併ナガラ多クハ此新知識並ニ新シキ文明ノタメニスル所ノ學術技術ト云フモノハ概ネ西洋諸國ヨリ輸入シテ一口ニ申セバマダ我邦ハ翻譯時代デアアルノデア、然ルニ此同盟條約ニ加盟ヲ致ストキニナレバ此翻譯

ト云フヤウナコトハ今日單ニ行レテ居ル所ノ翻譯ト云フモノハ非常ニ制限ヲサレテ容易ニ翻譯杯ハ出來ヌヤウニナルノデゴザイマス、ソレデス様ナル關係ヲモ顧ミズ此條約ニ這入ラナケレバナラス、這入ツタ上ハ我邦ノ文運ヲ進メル上ニ大ナル利益ガアラウト云フ御考ガアルデアラウト考ヘマスガ其事ニ附イテ大體ノ御意見ヲ伺ヒタイ

(政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(水野鍊太郎君) 唯今ノ御問ハ實ニ御尤ノコト、思ヒマス、今日日本ガ同盟ニ這入ルコトハ日本ノ文明ノタメニ利益デアアルヤ否ヤト云フコトハ隨分問題デアラウト思ヒマス、併ナガラ今日デハ既ニ改正條約ニ附イテ利益デアアルカ不利益デアアルカハ別問題ト致シマシテ領事裁判權ノ撤去ニ先チテ日本ハ同盟條約ニ必ズ加入スルト云フ約束ヲシテ居ルノデゴザイマス、今日這入ルカ這入ラナイカト云フコトハモウ既ニ過去ツタ問題デ苟モ改正條約ヲ實施シヤウトスルナラバドウシテモ日本ノ義務トシテ這入ラネバナラスノデアリマス、從ツテ今日デハモウ利益デアアルカ不利益デアアルカト云フ御問ニ對ラヌコトニナツテ居ルノデ此事ノ利益デアアルカ不利益デアアルカト云フ御問ニ對シマシテハドウシテアルカト云フコトハチヨット明言スルコトハムツカシカラウト思フノデゴザイマス

○久保田讓君 其所ヲ伺フノデアリマス、ソレデ條約ブスルノニ國ノ利益デアアルカナイカト云フコトヲ考ヘズニ條約ブスルト云フコトハナカラウト思フ必ズ條約ブスルニハ國ノ利益ト認メテシマノデアラウト思フ、ソレガ利益カ不利益カ分ラヌト云フコトハ甚ダ御答辯ノ要領ヲ得ヌト思フ、併シ利益カ利益デアナイカ分ラヌト云フコトナラバモウソレデ御尋ハ申サヌ

○政府委員(水野鍊太郎君) チヨットモウ一ツ、是ハ二十七年ニ日本ガ英國ト條約ヲ改正スル際……ソレガ一番先ト思ヒマシタガ、其時ニ領事裁判權ヲ撤去スル、日本ガ法權ヲ回復スルカラ其代リニ同盟ニ加入スルと言ツタカラ其時ノ趣意デハ日本ガ差支ナイ利益デアアルト云フコトヲ信ジテヤッタノデアリマセウ、ソレダケ……

○久保田讓君 アナタデ分ラヌコトハ他ノ方ガ答辯ナスツタラ宜カラウ

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御發議ガナクバ……

○久保田讓君 答辯ハナイノデアリマスガ、國務大臣モ居ラレルヤウデアリ内務次官モ居ラレルヤウデアリマスガ、此ノ如キ重要ナコトニ對シテ御答辯ガナイノデアリマスガ今一應……

(國務大臣曾根荒助君演壇ニ登ル)

○國務大臣(曾根荒助君) 今ノ御問ハドウカ質問書ニシテ出シテ下サイ、ソレダケヲ申シテ置キマス

○久保田讓君 御答辯ハ出來マセヌカ

○國務大臣(曾根荒助君) 此所デ申スコトハ出來マセヌ、其當時ノコトヲモウ一遍見ナケレバナリマセヌ、簡短ニ申シマスレバ大丈夫利益ガアルトシテ其時ニ條約ヲシタコトデゴザイマス、又本員モ條約ハ手ニ掛ケテヤッタコトデゴザイマス、併シ御質問ガアルナラバ鄭重ニ能ク見テサウシテ御答ヲ申シマセウ

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○子爵錦織教久君 本案ノ委員ハ議長ノ指名ニ御任セシタイ

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) 議長委託ニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス

(異議ナシト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 特許法案、政府提出、第一讀會

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十二年一月十六日

內閣總理大臣 侯爵山縣有朋
司法大臣 清浦奎吾
農商務大臣 曾根荒助

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

特許法案

第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限リ其ノ發明ノ物品及方法ヲ製作使用販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム

方法ノ發明ニ係ル特許ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス

第二條 左ニ掲クル物品又ハ方法ニ付テハ發明ノ特許ヲ受クルコトヲ得ス

一 飲食物、嗜好物

二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用井ラレタルモノ但シ試驗ノ爲ニ二年以內公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス
 第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ
 目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以
 テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之
 ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條 特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ特許證主ニシテ帝
 國內ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定
 ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局
 ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表
 スルモノトス

第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ノ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ
 改任ヲ命スルコトヲ得

第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登錄ヲ受クヘ
 シ代理業者ノ登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 前條ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯罪又
 ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スル
 コトヲ得

第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發
 スル命令ノ定ムル期間内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ
 特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲ササルト
 キハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス

第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面
 ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ離形若ハ見本ノ提出ヲ命ス
 ルコトヲ得

第十二條 特許ヲ出願シタル發明ハ特許局審査官之ヲ審査ス

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長
 ハ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス

第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者七
 箇月以内ニ同一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ
 日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシ
 テ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其
 ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ
 六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限り最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ
 爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ
 於テ出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國國內ニ於テモ有效トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ
 要スルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主
 務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ
 與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘ
 キモノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル
 者特許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ
 承諾ヲ受クヘシ

發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ
 告申スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明
 ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認
 ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 但シ第十六條ノ場合ニ於テハ之ヲ爲處分ヲ停止セス

第十九條 特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加
 特許ヲ受クルコトヲ得

追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス

第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ
 其ノ特許ヲ無効トス

一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
 三 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局
 長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ
 他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關
 係人ニ送付スヘシ

第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内
 ニ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セサル審査官ヲ
 シテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ
 不服者ニ送付スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明
 ニ關スル始末書ヲ徵シ審査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ查
 定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與
 フルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登錄ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタル

トキハ改訂明細書若ハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 審判ハ特許局長若ハ首席審判官審判長ト爲リ二人若ハ四人ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決ヲ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ付テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許ヲ取消スコトヲ得

ニ 於テ其ノ發明ヲ實施公行セス又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三項ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモノ之ヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ

三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ

前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス

特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條 特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第四十一條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知リテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年

以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者
又ハ情ヲ知リテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰金
ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス
第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品
ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ
物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓
以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タル
ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰金ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス
第四十九條 特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品
タルコトヲ知リタル者ニ對シテハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要價ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販
賣シタル部分ニ對シテ告訴又ハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 未成年者又ハ法人ニシテ此ノ法律ニ定メタル罪ヲ犯シタルト
キハ其ノ後見人其ノ之ヲ爲シタル理事會社ノ業務ヲ執行スル社員取締役
又ハ外國法人ノ代表者ヲ罰スルモノトス

第五十二條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁
ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法
ノ送達吏ト準視ス

第五十三條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第五十四條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨ
リ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間
此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マデニ處分ヲ終ラサ
ルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

(國務大臣會補荒助君演壇ニ登ル)

○國務大臣(會補荒助君) 此現行ノ特許法ハ二十一年ニ出來タモノデゴザイ
マシテ既ニ十有一年程ニナリマスルガ、其當時ト今日トデハ大イニ世ノ中ニ
發明者其他モ起ツテ來マスシ尙ホ其當時ニ於キマシテ十分思ヒマシタコト
ガ今日デハ不足シテ居ルヤウナ所ガ澤山ゴザイマス、且ツ又此改正條約ノ實
施ノ曉ニ至リマス、理由書ニモ書イテゴザイマス通、外國人ニ對スル方ノ
規定モ定ラヌ所ガゴザイマス、故ニ此際特許意匠商標ト此三ノ法案ヲ提出致
シタ譯デ就中此特許法ノ重ナル改正ノ點ヲ指摘シテ見マスルト外國在住者ノ
特許出願ニ對シテ代理人ヲ設ケルコト、特許代理業者ニ對シテ取締法ヲ設ケ
ルコト、工業所有權保護同盟條約ニ加入シタル國ノ特許出願者ニ對シテ特許
ヲ與フルコト、特許ノ審判ニ對シテ大審院ニ訴訟ヲスル途ヲ開クコト、是ダ
ケノコトデゴザイマス、尙ホ詳細ノコトハ政府委員ヨリ申上ゲマス御質問ガ

ゴザイマスレバ……

○下條正雄君 政府委員ニ一ツ質問致シマス、第五條中ノ「在職中特許ヲ有
スルコトヲ得ス」ト云フコトガアツテ但書以下ヲ見マスルト繼續スル權ハ許
シテアル、シテ見レバ「有スルコトヲ得ス」ト云フ意味ハ特許出願スルコトハ
ナラヌト云フ斯ウ云フ意味デアリマセウカ、チヨット伺ヒタウゴザイマス、
尙ホ第八條ノ「特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者」云々ト云フ所ハ第六條第
七條ノ代理人ト同ジキモノデアリマスルカ、但シハ違フモノデアリマスルカ、
ソレヲ伺ヒタイ

(政府委員柳谷謙太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(柳谷謙太郎君) 唯今ノ最初ノ御質問ノ條ハドレデゴザイマシタ
カ、チヨット聽取レマセヌデゴザイマシタ

○下條正雄君 第五條「在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス」ト云フ箇條デアリ
マス、但書以下デ見ルト「在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス」ト斯
ウアリマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 第五條デゴザイマスルカ
○下條正雄君 第五條
○政府委員(柳谷謙太郎君) 特許法案デゴザイマスルカ
○下條正雄君 特許法案
○政府委員(柳谷謙太郎君) 特許法案ノ第五條デゴザイマスルカ
○下條正雄君 マダ御分リニナリマセヌカ
○政府委員(柳谷謙太郎君) ハイ分リマシタガ、「特許局ノ官吏ハ在職中特許
ヲ有スルコトヲ得ス」ト云フ所ノ唯今ノ御質問ガ十分分リマセヌデゴザイマ
シタガドウカ……

○下條正雄君 特許法案ノ第五條「在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス」ト云フ
箇條デアリマス、ソレガ其條ノ但書以下デ見ルト「在職前ヨリ之ヲ有スルト
キハ此ノ限ニアラス」ト云フコトガアリマスルカ若クハ此意味ガ特許ヲ有ス
ルコトヲ得ススト云フ意味ハ特許出願スルコトヲ得ススト云フ意味デアリマス
カ、或ハ在職中ハ中止スルト云フ譯デアリマスルカ、ソコヲ御尋シマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 全ク此意味ハ特許局ノ官吏ハ在職中ニ發明致シ
マシテモ特許ヲ出願スルコトハ出來ズ從ツテ特許ヲ有スルコトモ出來ヌト云
フ意味デゴザイマス

○下條正雄君 チヨット要領ヲ得マセヌガ但シ相續ニ因リ之ヲ取得シタル者
又ハ在職前ヨリ之ヲ有スル者ハ其在職中ハ如何ニスルモノデアリマスルカ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 相續ニ因リマスルモノハドウモ如何共致シ難イ
デ尙ホ繼續シテ持ツテ居リマセウト思ヒマス、其在職前カラ持ツテ居ルモノ
モ其特許局ノ官吏ハ持ツテ居リマセウケレドモ或ハ官吏トシテ之ヲ實施公行
スルコトハ出來ナイコト、思ヒマスルカ其場合ニハ或ハ之ヲ他人ニ讓渡ス
ナリ自分ガ實施公行シナイデ居リマスルカ官吏ノ資格モアリ自ラ營業ニナリ
マスルモノデアリマスルカ他人ニ讓渡ストカ云フヤウナコトニナリマセウト
思ヒマス

○下條正雄君 モウ少シ要領ヲ得マセヌガ此「此ノ限ニアラス」ト云フコトハ
得スト云フコトデハナイ、斯ウ云フコトハアリマスルカ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 左様デゴザイマス
○下條正雄君 然ラバ其在職中其權ヲ如何ニスル譯デアリマス、但シ出願スルコトヲ得スト云フ意味デハナイカト云フコトヲ私ハ御問フスルノデアリマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 出願スルコトハ無論出來マセヌノデ、併ナガラ「特許」有スルコトヲ得ス」ト書イテアリマス、ノデアリマス、カシテ此相續ニ因リ又ハ在職前ヨリ持ッテ居リマシタキニハ、致方ハナイノデゴザイマス、ソレデ唯今申上ゲル通ニ實施公行ヲ致サヌデ置クダケデアラウカト思ヒマス

○下條正雄君 第八條ノ御尋ハ如何デゴザイマス
○政府委員(柳谷謙太郎君) 第八條デゴザイマス
○下條正雄君 第八條ノ「特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者」其代理ハ第六條第七條ノ代理人ト云フ者ト同一ノ者デアリマス、如何デゴザイマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 是ハ違ヒマス、第八條ハ「特許ニ關スル代理ヲ、所謂代理業ト云フモノヲ營ム者デアリマス、此片方ノ六條ト云フ場合ハ外國ニ居リマスル者デアリマス、カシテ帝國内ニ住居ヲ有スル者ニ其代理ヲ頼ミマス方デ、ソレデ第七條ハ……是ハ常業トシテ平日營業トシテ居ル者ノコトヲ申シマス

○下條正雄君 第七條ハ唯今ノ御答辯デ見ルト代理ヲ營業トシテ居ル者ト云フト第八條ノ代理業ト同ジヤウニ考ヘマスガ如何デアリマス
○政府委員(柳谷謙太郎君) 此第六條ノ方ハ代理人又ハ第七條ノ方ノ代理人ト書イテアリマス、ノハドチラモ第八條ノモ第六條ニ在ルモノモ兩方共ニ第七條ノ方ニ含シテ居リマス、其「代理人」適當ナラスト認ムルトキハ「ト斯ウシテ居リマス、全ク第六條ト第八條トハ代理人ノ種類ガ違ヒマス

○下條正雄君 第十六條「一ツ御尋致シマス、第十六條ハ人民ヨリ出願シタモノハ、コトヲ言フデハナイノデアリマス、全ク官廳ニ隱匿スルダケデアリマス、若クハ出願シタモノデモ是ハ特許ヲ許サヌデ政府ヨリ其權限ヲ與ヘテ制限ヲ付スルガ宜シイト御見込ニナサタモノハ出願シタモノトセザルモノニ拘ラズ此御處分ニナルノデゴザイマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 悉ク特許ヲ出願致シタモノダケデアリマシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ又ハ主務官廳デ特許ノ出願アリマシタニ附イテ其必要ガアルト云フコトノ請求アリマシタトキノ場合デアリマス
○木下廣次君 第八條ノ常業代理者ト云フコトニ附イテ私ハ極世上ニ疎イ質問デゴザイマスガ「御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、代理ノ常業者ト云フコトヲ法文ニ載セマス」ト一ノ資格ノ人體ガ茲ニ現レテ出ルヤウニ考ヘラレルデヤガ是ハ事實今日此常業ノ代理者ト云フモノハ特許等ニ於テ必要ニナラテ居ルデゴザイマス、若クハ何カノ因縁カラシテ自ラ此社會ニ是等ノ代理ヲ常業トスル者ガ出來テ居ル、其取締等ニ關シテ法律ニ矢張常業ノ代理者ナル者ヲ載セバ不都合デアラカト云フ御考デゴザイマス、其邊甚ダ迂闊デ分リマセヌデヤガ「御説明ヲ願ヒマス、

○政府委員(柳谷謙太郎君) 全ク唯今ノ後段ニ御考ノ通デゴザイマス、今日既ニ特許ノ代理業ト云フモノヲ致シテ居ル者ハ數十人アリマス、其中ニ是非取締ヲ致サナケレバナラヌ必要ガアリマシテ是ダケヲ……

○木下廣次君 サウ致シマスルト常業ノ代理者ナルモノ、取締法ト云フモノハ別ニ御設ニナル御趣意デゴザイマセウカ、若クハソレ等ノ常業ノ代理者ナルモノハ即チ或ル資格アツテ例ヘバ辯護士デナクチャアナライト云フコトニデモ御取締ガ付クモノデアリマセウカ、其邊御考ヲ拜聴致シタイ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 此第八條ノ第二項ノ「代理業者ノ登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」トシテアリマス、之ヲ以テ登録ヲ致サセル積デアリマシテ、取締ハ命令ヲ以テ定メル積デアリマス
○木下廣次君 尙ホ一ツ、サウシマスルト一種ノ茲ニ營業的ノモノヲ置ク御趣意デゴザイマス、若クハ例ヘバ財産ノ相談人トアレバ辯護士ガ既ニ其業ヲ兼テ居ルト云フ如キ有様デ此特許ノコトニ關シマシタ相談人若クハ代理人トアレバ矢張ソレ等ノ人ガ兼ネルコトニナルデゴザイマセウカ、即チ特許申シマスルト一種ノ今代理業ヲシテ居ル者ハ法律デ認テ矢張是ハ正當ノ者デアルト斯ウサル、積デアリマセウカ、如何ト云フ問題デゴザイマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 全ク別ニ命令デモツテ之ヲ定マシテ一種ノ特許意匠商標ノ代理者ト云フモノヲ定メル積デアリマス、特許商標、意匠商標ノ代理者ト云フ者ヲ掲ゲル積デアリマス、外國ニハ御承知ノ通「パテン」ト、「エゼント」ト云フモノハ丁度コチラノ辯護士見タヤウニナラテ居リマス、ア「云フモノヲ法律ヲ以テ認テ行クノデアリマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 他ニ御質問ガナクハ委員ノ選定ニ移リマス
○子爵小笠原壽長君 此特別委員ノ選舉ハ議長ニ御委託ヲ致シマス
○子爵錦織敏久君 贊成
○議長(公曾近衛篤磨君) 是ハ小笠原子爵ニ「御協議致シマスガ前ト同一委員ニシタラ如何デゴザイマス

○子爵小笠原壽長君 是ハ別ガ宜カラウト思ヒマス
○議長(公曾近衛篤磨君) 唯今御協議シマシタガ段々承テ見マス、後ノ案ガ三ツ一緒ノ方ガ都合ガ宜イサウデゴザイマス、議長ノ粗忽デアリマシタカラ……小笠原子爵ノ動議ニ御異議ガナクハ其通ニ致シマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 呼フ者アリ
○男爵伊達宗敦君 チョット私ハ……此大分今日ノ日程ハ澤山アリマスケレドモ總テ一讀會デ委員付託ノコトガ多イノデアリマス、ソレデ一々是ヲ第何十特別委員ノ選舉ト斯ウ言ツテ發議ヲスルノモ餘リ煩ハシイコト、思ヒマスカラドウカ二十九マデノ議案ノ審査ヲスル委員ハ總テ議長ニ御委託ヲ願ヒタイト思ヒマス、甚ダ何デスガ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 呼フ者アリ
○伊澤修二君 本員ハ伊達男爵ノ動議ニ贊成致シマス
○議長(公曾近衛篤磨君) 伊達男爵ニ「御協議致シマスガサウ云フ御發議ニナリマスルト或ハ委員ノ人數デアルトカ或ハ同一委員ニ付託スルト云フコトハソレマデモ合セテ御委託ニナルノデアリマス

○男爵伊達宗敦君 委員ハ總テ九名、ドノ案デモ……ソレカラ同一委員ニ付託スベキモノハ同一委員ニ付託シタイノデアリマス、併ナガラ同一委員ト云フコトハ此所デ私ガ述ベル譯ニハイキマセヌカラソレハ唯今小笠原子爵ニ御

ト云フコトハ此所デ私ガ述ベル譯ニハイキマセヌカラソレハ唯今小笠原子爵ニ御

注意ニナツタヤウニ是ハ同一委員ト云フコトニ御諮リヲ願ヒタイ、甚ダ無性ノヤウデアリマスケレドモドウセ此案ハ議長ニ一々委託ト云フコトヲ言ハナケレバナリマセヌ、同ジコトデゴザイマスカラ極メテ置キタイと思ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) ソンナラ同一委員ト云フコトハ其都度議長カラ心附イタ場合ニ申セト云フノデスカ

○男爵伊達宗敦君 ソレデ差支ナカラウト思ヒマス

○子爵高野宗順君 私ハ今想像ニ過ギタコトヲ申スヤウデアリマスガ、今日ハ盡ク一議會デゴザイマスカラソレデサウ云フ説モ出デ且ツ又唯今第二ノ法案ガ出マシテ第四ノ特許法案ノ場合ニ議長カラ御協議ガゴザイマシテ其事ニ附イテ伊達サンノ御話ガアリマシタガ私ハ餘リ簡略ニ流レマスト如何デゴザイマス、又今日ノ如キ斯ウ云フ一議會バカリ揃ッタコトハサウナカラウト思ヒマス、又其シヤアルニシタ所ガ一々議長ニ選定ヲ請フコトヲコチカラウト求フシタ所ガ格別ノコトハアルマイカト思ヒマス、ドウカ是ハ前例ニ習ッテ矢張コチカラハ人數ノ大小モコチカラ請求シマス、又普通ノ九人ナラ九人トシマシテ總テ是マデ通ニ習ッテヤリタイト云フコトヲ希望シマス

(贊成「ト呼フ者アリ」)

○子爵本莊壽巨君 私ハ矢張り伊達男爵ノ發議ヲ贊成シマス、サウシテ此議長ニ御任セスル中ニ大抵一ツ法案ハ同一委員ヲ選ブ方ガ宜カラウト思ヒマスカラ豫メ私ノ心附キヲ申シマス、特許法案ト意匠法案ト商標法案ト此三法案ヲ同一委員ニ、ソレカラ葉煙草專賣資金會計法ソレカラ造幣局設置云々、北海道官設云々、此三法案ヲ同一委員ニ、ソレカラ事業公債云々、債金ヲ公債費途ニスル云々、明治二十三年法律云々、此三法案ハ同一委員ニ、ソレカラ作業會計法、又作業法中改正法律案、此二法案ヲ同一委員ニ、此意見デゴザイマス

○周布公平君 本員ハ高野子爵ノ説ニ贊成デアリマシテ矢張此順序ヲ逐フテ御議シナルガ宜カラウト思ヒマス、此議事日程ガ二十九マデ定ッテ居リマスノニ唯今二十九マデノ日程ヲ繰上ゲテ特別委員ノ選舉マデモ致スト云フノハ即チ取リモ直サズ議事日程ノ變更デアリマス、是等ノコトニ論ヲ費スヨリハズンズント御運ビニナルヤウニ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 伊達男爵ノ發議ニハ贊成ガアッテ成立ッテ居リマスカラ決ヲ採リマス、是ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數デアリマス、特許法案ノ案ニ就キマシテ小笠原子爵ニチヨット御尋シマスガ人數ノ所ハ矢張御發議ガナカッタガ九名ト云フ御考デアリマス

○子爵小笠原壽長君 委員ノ數ハ是ハ十五名ト致シタイと思ヒマス、アトノ二法案ヲ同一委員ニ付託シタイと思ヒマスカラ是ハ十五名ト致シタイと思ヒマス

○子爵本莊壽巨君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデ御異議ハゴザイマセヌカ
(異議ナシ「ト呼フ者アリ」)

○議長(公爵近衛篤磨君) 第六、意匠法案、政府提出第一讀會

(小原書記官朗讀)

意匠法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十二年一月十六日

內閣總理大臣 侯爵山縣有朋
司法大臣 清浦奎吾
農商務大臣 曾禰荒助

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)
意匠法案

意匠法

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得ス
一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀、模様ヲ有スルモノ
二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
三 意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用井ラレタルモノ若ハ之ト類似スルモノ但シ自己ノ登録意匠ト類似スルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 意匠專用ノ年限ハ十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス但シ類似意匠ノ專用年限ハ原意匠ノ有效年限ニ伴フ

第四條 意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル

第五條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ニ係ル登録出願ノ權利ハ其ノ委託者若ハ雇主ニ屬ス但シ別ニ契約アル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條 意匠專用權ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコレハ之ヲ以テ第三三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 類似ノ意匠ヲ所有スル者ハ類似意匠ト共ニ讓渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スニ非サレハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠專用權ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルモノハ此ノ限ニアラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一意匠毎ニ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ明記シ離形、見本若ハ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

第十條 特許局長ハ出願者ニ對シ離形、見本、圖面、説明者ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條 二人以上同一又ハ相類似スル意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録ス其ノ同時ノ出願ニ係ルモノハ共ニ之ヲ登録セス但シ出願者共有ノ目的ヲ以テ連名登録ノ申出ヲ爲シタルトキ又ハ出願者一人ト爲リタルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ意匠登録ヲ出願シタル者四箇月

以內ニ同一意匠ニ付登録ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於

テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ第一條第二條第五條又ハ第九條ニ違

反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス

第十二條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ

特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 意匠登録證主意匠料納付期限後六十日ヲ經過シ仍其ノ納付ヲ怠リタ

ルトキ

二 意匠登録證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十二條ニ依ル特許

法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十三條 意匠登録證主ハ意匠料トシテ各意匠ニ付第一年ヨリ第三年マテ

ハ毎年金三圓第四年ヨリ第六年マテハ毎年金五圓第七年ヨリ第十年マテ

ハ毎年金七圓ヲ納ムヘシ

類似意匠ノ登録ヲ受ケタルトキハ各類似意匠ニ付一時ニ金三圓ヲ納ムヘ

シ

第十四條 意匠料ハ毎年一年分ヲ登録證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納ス

ヘシ第一年ニ係ルモノ及前條第二項ノ意匠料ハ登録査定書到達ノ日ヨリ

三十日以內ニ之ヲ納ムヘシ

前納シタル意匠料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ意匠料ヲ納付

シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ到ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第十五條 意匠登録證主ハ其ノ意匠ヲ應用シタル物品ニ意匠登録ノ標記ヲ

付スヘシ

第二十條 第十七條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十一條 意匠登録證主登録標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ登

録意匠タルコトヲ知リタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一

條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條第五十一條及第五十

二條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨ

リ之ヲ廢止ス

意匠條例ニ依テ受ケタル登録ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル登録

ト同一ノ效力アルモノトス

意匠ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサ

ルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

(國務大臣會同荒助君演壇ニ登ル)

○國務大臣(會同荒助君) 意匠法案ノ提出ノ理由ハ前ノ特許法案同一ノ事

デゴザイマス、尙ホ時間ヲ失ハヌガタメニ申シテ置キマス、此後ノ商標モ

同シ理由デゴザイマシテ別段更ニ申上ゲルノ必要ハゴザイマセヌ

○下條正雄君 政府委員ニチヨット御尋ヲ致シマス、第一條ノ「新規ノ意匠」

ト云フコトノ中ニ若クハ外國品ノ形狀模様ト利用シタルモノハ差支ナイ趣意

デアリマスカ如何デアリマス、是ヲ承リタイ、モウ一ツハ第三條ノ類似意

匠ト云フモノハ第一條ニ純粹ノ意匠ノ外ニ類似意匠ト云フモノヲ設ケル

趣意デアリマス、カ之ヲ伺ヒタイ

(政府委員柳谷謙太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(柳谷謙太郎君) 甚ダ恐入リマスガモウ一遍ドウカ……

○下條正雄君 第一條ノ新規ノ意匠ヲ按出スルト云フ、新規ノ意匠ト云フ中

ニ若クハ外國品ノ形狀模様等ヲ利用スルモノハ如何デアリマス、カ……マダ御

分リニナリマセヌカ、第一條ノ「新規ノ意匠」ヲ按出シタルト云フ、「新規ノ

意匠」ト云フコトニ附イテ若シ外國品ノ形狀若クハ模様等ヲ利用シタルモノ

ハ這入ラヌト云フ意味デアリマス、カ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 外國人ノデアリマス、カ

○下條正雄君 外國品ノ、外國品ノ模様が形狀ヲ利用シタル物ハ

アリマス、レバ即チ其ノ新規ノ意匠ヲ按出シタルモノト考ヘマス

○下條正雄君 外國品ト云フノデアリマス、外國品ノ模様が形狀ヲ利用シ

テ一種ノモノヲ按ヘ出シタルモノトコトデアリマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 外國品ノ形狀等ヲ利用致シマシテ、ツレガ全ク

新規デアリマス、レバ新規ノ意匠ト認メマス、カ

○下條正雄君 第三條ノ類似意匠ト云フモノハ一種ノ類似意匠ト云フ名稱デ

アリマス、カ、第一條第二條ノ純粹ノ意匠ノ外ニ類似意匠ヲ設ケルノデアリマ

スカ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 第三條デアリマスカ

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
司法大臣 清浦奎吾
農商務大臣 曾禰荒助

○下條正雄君 左様
○政府委員(柳谷謙太郎君) 此類似意匠ト申シマスノハ矢張一條二條三條ト云フモノハ含ミマセヌデアリマシテ第一條ニ在リマス所ノ新規ノ意匠ヲ按出シタルモノニ矢張類似致シタルモノデアリマス

○下條正雄君 類似致シタル品物ト云フコトデアリマスカ、但シハ類似意匠ト云フ名稱ヲ設ケルノデアリマスカ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 類似意匠ト云フノデアリマス
○下條正雄君 一種ノ名稱デアリマスカ

○政府委員(柳谷謙太郎君) 左様デゴザイマス
○下條正雄君 第八條中ノ後段ニ「特許局長ハ出願者ニ對シ難形見本圖面說明者ヲ提出ヲ命スルコトヲ得」トアリマスガ是ハ若クハ字ノ誤デアリマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 是ハ正誤ニナテ居リマスノデアリマス、説明書デアリマス

○下條正雄君 モウ一ツ伺ヒタイ、第十七條類似意匠ノ後段「類似ノ意匠ヲ應用シタル同物品ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リ」云々ト、是ハ罰則ニナテ居リマスガ是ハ輕カラヌコト、考ヘマス、外國ヨリ輸入シタル物ト云フト取りモ直サズ外國品ヲ輸入シタル譯デアリマスカ、如何デアリマスカ伺ヒマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 全ク登録シテ居リマス所ノ意匠ト同一物ハ勿論ノコトツレニ類似致シタル意匠ヲ應用シテ拵ヘマシタル物品ヲ外國カラ輸入シタルモノデアリマス

○下條正雄君 外國品デアリマスカ外國ノ品物ニ據リマシタルモノデアリマス

○政府委員(柳谷謙太郎君) 左様デアリマス、物品ヲデアリマス、外國カラ參リマスカラ必ズ外國品デアラウト思ヒマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○子爵小笠原壽長君 此特別委員ハ前ノ特許法案ト同一委員ニ付託シタウゴザイマス

○子爵高野宗順君 贊成
○議長(公曾近衛篤磨君) 同一委員ト云フコトニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公曾近衛篤磨君) 商標法案、政府提出、第一讀會

(小原書記官朗讀)

商標法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十二年一月十六日

貴族院議事速記録第十三號

明治三十二年一月十九日

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

商標法案

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ專用セントスル者ハ此ノ法律ニ依リ其ノ登録ヲ受クヘシ

第二條 文字、圖形又ハ記號ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章又ハ外國ノ國旗ト同一若ハ類似ノモノ

三 秩序又ハ風俗ヲ紊リ若ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

四 他人ノ登録商標又ハ其ノ登録失効後一年ヲ經過セサルモノト同一若ハ類似ニシテ同商品ニ使用セントスルモノ

五 此ノ法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若ハ類似ノモノ

六 商品ノ普通名稱、產地ヲ表彰スルモノ又ハ其ノ品位、品質、形狀ヲ商業上慣用ノ文字、圖形若ハ記號ニ依リ表彰スルモノ及普通ニ使用セラルル氏名、商號、會社名若ハ組合名ヲ普通ノ書體ニ依リ記載スルモノ

七 欄、地紋其ノ他特別著明ノ外觀ナキモノ

第三條 商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

外國ノ登録商標ニシテ帝國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノノ專用年限ハ原簿登錄ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 商標專用年限満了ノ後其ノ商標ヲ續用セントスル者ハ更ニ其ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第五條 商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル

第六條 登録商標主其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其ノ營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其ノ商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登錄商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ其ニ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 商標ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ其ノ商標ヲ付スヘキ商品ヲ明記シ見本ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

第八條 二人以上同一又ハ相類似スル商標ヲ同商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録シ同時ニ出願シタルモノハ共ニ之ヲ登録セス但シ出願者一人トナリタルトキハ此ノ限ニアラス

第九條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ商標登録ヲ出願シタル者四箇月以内ニ同一商標ニ就キ登録ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ

於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十條 登錄ヲ受ケタル商標ニシテ第二條又ハ第八條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登錄ヲ無効トス但シ第二條第四號若ハ第五號ニ該當シ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルモノニシテ登錄後三年ヲ經タルトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 登錄ヲ受ケタル商標ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一 登錄商標主登錄後其ノ商標ヲ使用スル商品ノ產地、品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

二 登錄商標主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十條ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十二條 商標專用權ハ登錄商標主其ノ商標ヲ使用スル營業ノ廢止ニ因リ消滅ス

第十三條 商標ノ登錄ヲ受ケル者ハ一商標ニ付商品一類毎ニ商標料金三十圓ヲ納ムヘシ續用ノ登錄ニ付テモ亦同シ

第十四條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ商標登錄ニ關スル必要事項ヲ公示スヘシ

第十五條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十六條 他人ノ登錄商標ナルコトヲ知り其ノ承諾ヲ經シテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ交付若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登錄商標ヲ有スル容器、包裝等ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十七條 詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケタル商標ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄ヲ受ケシテ登錄標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標ト分離スヘカラサル商品、容器、包裝等ハ之ヲ毀壞セシム

第十九條 第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條第五十一條第五十二條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

第二十一條 主務官廳ニ於テ認可シタル同業者ノ組合ニシテ標章ヲ商標トシテ專用セントスルモノハ此ノ法律ニ依リ登錄ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ登錄ヲ受ケタル標章ハ登錄商標ニ準ス

附則
第二十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

商標條例ニ依テ受ケタル商標ハ此ノ法律ニ依テ受ケタル商標ト同一ノ效力ヲ有ス

商標ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マデニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

第二十四條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例第二條第三號ニ該當シ又ハ同第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタル商標ニシテ同第十條ニ依リ無効タルヘキモノニ對シテハ此ノ法律施行後二年ヲ經過スルトキハ其ノ登錄無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

〔國務大臣會補荒助君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(會補荒助君) 本案モ前以テ申上ゲタ通デゴザイマスデ他ノ二案ト共ニ通過アラントヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○子爵小笠原壽長君 此委員モ前ノ特許法案意匠法案ト同一委員ニ付託致シタウゴザイマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) 同一委員ト云フコトニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛篤磨君) 精神病者監護法案、政府提出、第一讀會

〔小原書記官朗讀〕
精神病者監護法案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十二年一月十六日

右
內閣總理大臣 侯爵山縣有朋
內務大臣 侯爵西鄉從道

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕
精神病者監護法案

精神病者監護法案

精神病者監護法案

精神病者監護法案

第一條 精神病者ハ其ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主又ハ後見人ニ於テ監護スルノ義務アリ
前項ノ監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順序ハ左ノ如シ

第一 後見人

第二 配偶者

第三 父母

第四 戸主

第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四親等内ノ親族中ニ付親族會ノ選任シタル者

第二條 精神病者ヲ私宅ニ監置シ又ハ病院ニ收容セントスルトキハ監護義務者ヨリ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ地方長官東京府ハ警視總監以下倣之ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ私宅ニ監置シ又ハ官立縣立ニ非サル病院ニ收容セントスルトキハ後見人ヨリ地方長官ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

公私立精神病院、普通病院ノ精神病室並私宅監置場ノ設備構造及管理方法ニ關スル一般ノ規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 精神病者他人ニ危害ヲ加フルノ虞アルトキ又ハ身體ノ保護上必要アルトキハ其ノ禁治產者タルト否ト問ハス監護義務者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ假ニ本人ヲ私宅ニ監置シ又ハ病院ニ收容スルコトヲ得

前項ニ依リ假ニ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ニ於テ七日以内ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 精神病者ヲ私宅ニ監置シ又ハ病院ニ收容セスト雖其ノ身體ノ自由ヲ拘束セントスルトキハ監護義務者ヨリ其ノ事由ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 前三條ノ規定ハ裁判所カ人事訴訟手續法第五十條ニ依リ精神病者ニ對シ禁治產ノ宣告ヲ爲ス迄本人ノ監護ニ付必要ノ處分ヲ命シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 地方長官ハ何時ニテモ部下ノ官吏又ハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者アリト認ムル家宅若ハ病院又ハ現ニ精神病者アル家宅若ハ病院ニ立入り本人ノ身心動靜、衣食待遇並監置場所ノ構造其ノ他一切ノ狀況ヲ臨檢セシムルコトヲ得

第七條 地方長官ハ第二條ノ願出若ハ届出ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ精神病者トシテ監置收容其ノ他身體ノ自由ヲ拘束セラレントシ若ハ拘束セラレタル者アルコトヲ知リタル場合ニ於テ檢査ノ上左記ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第二條ノ願出若ハ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ私宅ノ監置場又ハ病院ノ精神病室ノ構造命令ノ定ムル所ニ適合セサルトキハ其ノ監置若ハ收容ヲ認可セズ期間ヲ定メテ其ノ改造若ハ變更ヲ命スルコト此ノ場合ニ於テ若シ精神病者ニシテ第三條ニ定メタル必要アルトキハ方法

ヲ指定シテ假ニ本人ヲ私宅ニ監置シ又ハ病院ニ收容セシムルコトヲ得

二 第二條第一項ノ願出ヲ受ケタル場合ニ於テ精神病者タル事實ヲ認メ難キトキ又ハ其ノ事實アルモ之ヲ私宅ニ監置シ若ハ病院ニ收容スルノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ監置又ハ收容ヲ認可セサルコト

三 第二條ノ規定ニ依リ既ニ認可ヲ與ヘタル後雖前二號ニ掲ケタル認可ノ要件ヲ闕クニ至リタルトキハ之ヲ取消スコト

四 警察署又ハ分署ノ認可セル程度ヲ超エテ精神病者ノ身體自由ヲ拘束シタル事實アルトキハ其ノ認可ヲ取消ヲ命シ若ハ其ノ拘束ヲ適當ノ程度ニ迄更改スヘキコトヲ命スルコト

五 此ノ法律ニ依ラスシテ精神病者ヲ私宅ニ監置シ又ハ病院ニ收容シ若ハ其ノ身體ノ自由ヲ拘束シタル者アルトキハ直ニ其ノ監置、收容又ハ拘束ノ廢止ヲ命スルコト但シ此ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ其ノ監置、收容又ハ拘束ヲ廢止セシメ其ノ儘繼續ヲ命スルコトヲ得

第八條 私宅監置、病院收容又ハ身體拘束ヲ爲ササル精神病者ニシテ他人ニ危害ヲ加フルノ虞アルトキ又ハ其ノ身體ノ保護上必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ職權ヲ以テ病院ヲ指定シ本人ノ收容ヲ命スルコトヲ得

第九條 地方長官ハ前三條ノ檢査又ハ處分ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ檢査委員ヲ設ケ精神病者監護義務者及其ノ他ノ關係人ヲ召喚シ檢査委員ヲシテ檢査上必要ノ事項ヲ尋問セシメ若ハ其ノ家宅ニ臨檢シ同様に尋問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 赤貧ニシテ自活スルニ途ナキ精神病者ハ其ノ居住地ノ市町村長ニ於テ救護ノ手續ヲ爲スヘシ

前項精神病者カ救護ヲ受クルニ必要ナル市町村居住期間救護スヘキ市町村ナキ者又ハ其ノ市町村知レサル者其ノ他本人家族及同居未成年者ノ救護ノ手續ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

赤貧者ニ非ラスト雖相當ノ監護義務者ナキ精神病者及精神病者タル刑事被告人又ハ囚人ニシテ放免セラレ相當ノ引取人ナキ者ノ取扱ハ本條ノ例ニ依ル

第十一條 行旅精神病者ハ其ノ所在地ノ市町村長ニ於テ救護ノ手續ヲ爲スヘシ

原籍氏名居住地等ノ判明セル行旅精神病者又ハ以上ノ事實判明セサル者並其ノ同伴者アルトキハ救護ノ手續若ハ救護ノ費用徴收手續又ハ死者アルトキハ其ノ取扱ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 前二條ニ規定セル精神病者ニシテ他人ニ危害ヲ及ボスノ虞アルトキ又ハ其ノ身體保護上必要アルトキハ市町村長ハ第二條ノ規定ニ準據シ本人ヲ私宅ニ監置シ若ハ病院ニ收容シ又ハ第四條ノ規定ニ依リ本人ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ市町村長又ハ監護義務者ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ病院ヲ指定シ精神病者ノ收容ヲ命スルコトヲ得

第十三條 此ノ法律ニ依リ私宅監置、病院收容又ハ身體拘束ヲ行ヒタル精神病者ノ治療、死亡、失踪、退院シタルトキ又ハ監置若ハ拘束ヲ廢止シタルトキハ監護義務者ヨリ二十四時間以内ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但シ失踪ノ場合ヲ除ク外醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第十四條 公私立精神病院又ハ精神病室ヲ備フル普通病院ハ此ノ法律及命令ノ定ムル所ニ從ヒ地方長官ノ指定ニ依リ精神病者ノ收容ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 第二條第三條第一項及第四條ノ規定ニ違反シテ精神病者ノ私宅監置、病院收容又ハ身體拘束ヲ行ヒタル者又ハ此ノ法律ノ施行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シタル者又ハ第六條ノ規定ニ依リ臨檢ヲ爲ス者ノ尋問若ハ第九條ノ検査委員ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス又ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第三條第二項及第十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 醫師ニシテ第二條第三條第四條及第十三條ノ診斷書中ニ虛偽ノ事實ヲ記載シ若ハ自ラ診察セスシテ診斷書ヲ付與シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條 此ノ法律ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律施行以前ニ於テ精神病者ノ私宅監置、病院收容又ハ身體拘束ヲ行ヒタル者更ニ其ノ施行以後ニ於テ之ヲ繼續セントスルトキハ命令ノ定ムル期限内ニ第二條第三條又ハ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

(政府委員松平正直君演壇ニ登ル)

○政府委員(松平正直君) 本案ヲ提出シマスル所以ハ理由書ニ審ニゴザイマシテ御承知ト存ジマスルガ一言唯申上ケマスガ精神病ニ附イテ社會ニ患者ヲ流シマスルノハ實ニ意想外ニ大ナルモノデアリマス、民法上ニ於テ規定ハアリマスルケレドモ是ハ民法ニ規定スル所ハ重ニ財産上ノ保護デゴザイマシテ此精神病者ト云フモノニ附イテ社會ニ障害ヲ及ス如キニ附イテノ規定デゴザイマセヌ、依ッテ此法律ヲ制定シテ右等ノ者ヲ能ク保護シテ遂ニ社會ニ流ス患者ヲナキヤウニ致シタイト云フ目的デアリマスルノデドウゾ御協賛アラシトナフ……

○子爵稻垣太祥君 チョット質問……此精神病ノ病院デゴザイマスガ是ハ第二條ノ末項ニ勅令ヲ以テ云々トゴザイマスルガ政府ニ於テハ如何ナル病院ヲ内地ノ各縣ヘハ配置スル御考デアリマスカ、御分リニナッテ居リマスレバ伺ヒタウゴザイマス

(政府委員長谷川泰君演壇ニ登ル)

○政府委員(長谷川泰君) 唯今ノ御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲマスルガ是ハ普通病院ノ設立シテアリマスル府縣稅、地方稅、若クハ市稅等デシテアリマス所

ハ無論之ニ該當致シマス其外ハ地方ノ府縣立病院等ニ精神病患者ヲ容レマス相當ノ病室ノアリマス所モアリ、多クハ設備シテナイ所ガ多數ノヤウニ考ヘマスルカラ此法律ノ發布セラレマシタ以上ハ相當ニ右等ノ病院ニハ精神病患者ノ保護ノ出來マスヤウナ病室ヲ設立セシメマス精神デアリマス、右様御了承ヲ願ヒマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○子爵本莊壽巨君 此特別委員ノ選舉ハ議長ニ御委託シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○男爵中川與長君 贊成

○議長(公衛近衛篤磨君) 御異議ガナクバ其通決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公衛近衛篤磨君) 事業公債及鐵道公債特別會計法案政府提出、衆議院送付第一讀會……

(小原書記官朗讀)

事業公債及鐵道公債特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公衛近衛篤磨殿

事業公債及鐵道公債特別會計法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

事業公債及鐵道公債特別會計法案

事業公債及鐵道公債特別會計法案

第一條 鐵道敷設法、事業公債條例及北海道鐵道敷設法ニ依ル公債金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 公債募集金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入

レ一般ノ歳入トシテ之ヲ拂出スヘシ

但シ償金特別會計資金ノ一時繰替金ヲ返償スル場合ニハ直ニ償金特別會計ノ資金ニ繰入スヘシ

第三條 公債募集金ノ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

第四條 公債ヲ以テ支辨スル事業完了ノ上公債募集金ニ剩餘アルトキハ一般ノ歳入ニ繰入スヘシ

第五條 政府ハ毎年公債特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國會議ニ提出スヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

第七條 鐵道公債會計法ハ明治三十一年度限り廢止ス

○久保田讓君 チョット今ノ議スル方法ニ附イテ一言シタイデスガ此シマヒマデ殘ラズ會計ノ整理ニ關スル問題デアリマスカラ一々議スル必要モアルマイカト思ヒマス矢張シマヒマデ二十九マデ一ツニシテサウシテ御議シニナツタ方ガ宜カラウト思ヒマス……是カラシマヒマデ皆同ジヤウナ問題デアリマス、皆會計ノ整理ニ關スルモノデアリマスカラ議論ハナカラウト思ヒマス、一括シテ問題ニナツテ委員會モ一ツデア宜カラウト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 委員ノコトハ委員ノ場合ニ御發議ニナリタイデスガ問題ニ供スルコトダケハ是ダケヲ一緒ニ問題ニ供スルト云フコトデアリマスカ

○久保田讓君 ハイ

○山中幸義君 贊成

○議長(公爵近衛篤磨君) 如何デゴザイマセウ、久保田君ノ動議ニ御異議ガナクバ……

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) ツレデハ第十一ヨリ第二十九マデ一括シテ問題ニ供シマス

○久保田讓君 ドウカ説明モ一括シテ……

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨君

債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

債金ヲ公債費途ヘ繰替運用ニ關スル法律案

鐵道敷設法、事業公債條例及北海道鐵道敷設法ニ依ル公債募集金ヲ以テ支辨スヘキ費途ハ市場金融ノ景況ニ由リ一時債金特別會計資金ヲ以テ繰替支

辨シ他日公債ヲ募集シテ之ヲ返償スルコトヲ得

債金特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨君

債金特別會計法中改正法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

債金特別會計法中改正法律案

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

債金ハ歲計上ノ都合ニ依リ國庫内他ノ會計部ヘ一時繰替運用ヲ爲スコトヲ得

明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨君

明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

明治二十三年法律第十四號廢止ニ關スル法律案

第一條 明治二十三年法律第十四號ハ明治三十一年度限り廢止ス
第二條 整理公債募集金ノ明治三十一年度末ニ於ケル現在金ハ一般會計ノ歳入ニ繰入スヘシ

造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十二年一月十六日

貴族院議長公爵近衛篤磨君

衆議院議長片岡健吉

造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

造幣局据置運轉資本増加ニ關スル法律案

造幣局据置運轉資本ニ關スル金地金ノ價格ヲ造幣價格ニ改算シ其ノ増加金額ハ之ヲ造幣局据置運轉資本ニ加フヘシ

葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨

葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

葉煙草專賣資金會計法廢止ニ關スル法律案

葉煙草專賣資金會計法ハ明治三十二年度限り廢止ス

北海道官設鐵道用品資金會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨

北海道官設鐵道用品資金會計法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

北海道官設鐵道用品資金會計法案

第一條 北海道官設鐵道ノ用品ヲ購入貯藏シ其ノ運輸營業並建設事業ノ需用ニ應スル爲北海道官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 北海道官設鐵道用品資金ハ五拾萬圓トシ必要ニ應シ漸次一般會計

ヨリ繰入ス

第三條 北海道官設鐵道用品資金ノ會計ニ關シテハ明治二十六年法律第二號官設鐵道用品資金會計法ヲ適用ス

附則

此ノ法律ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業會計法中改正法律案(製鐵所)

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨

作業會計法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

作業會計法中改正法律案

第一條 第三ヲ左ノ如ク改ム

第二條 第三ヲ左ノ如ク改ム

第三 製鐵所

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

製鐵所据置運轉資本ハ四百五拾萬圓トシ漸次一般會計ヨリ繰入ス

附則

此ノ法律ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業會計法中改正法律案(專賣局)

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年一月十六日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨

作業會計法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十一年十二月十日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

作業會計法中改正法律案

第一條第五ノ次ヘ左ノ如ク追加ス

第一條第五ノ次ヘ左ノ如ク追加ス

第六 專賣局

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

專賣局据置運轉資本ハ明治三十三年四月一日現在ノ葉煙草專賣資金ヲ以テ之ニ充テ漸次増加シテ八百萬圓トス

附則

此ノ法律ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

(政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(阪谷芳郎君) 唯今日程ニ上リマシタ法案ハ唯今ノ久保田君カラ御話ニナリマシタ通總テ會計法ノ整理ニ關シマスコトデ簡單ナ法律デアリマス、理由書ニ於テ十分盡シテ居ルト存ジマス、ソレデ久保田君カラ御發議ニナリマシタ通一括シテ同一委員ニ付託ニナル方ガ説明者ニ於キマシテモ大變便利ヲ致シマスコトデゴザイマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 御質問ガナクバ各議案ノ委員ノ選定ニ移リマス

○久保田讓君 委員ハ議長ノ指名ニ……

○議長(公衛近衛篤磨君) 人數ハ九名デスカ

○久保田讓君 ハイ

(「贊成」ト呼フ者多シ)

○議長(公衛近衛篤磨君) 久保田君ノ動議ニ御異議ガナクバ總テ同一委員ト云フコトニ致シマス、御依託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道ニ及ビマス

(太田書記官朗讀)

著作權法案特別委員

子爵谷 干 城君

久保田 讓君

菊池 武夫君

特許法案外二件特別委員

子爵長岡 護美君

子爵相良 賴紹君

金子堅太郎君

周布 公平君

下條 正雄君

精神病者監護法案特別委員

伯爵正親町實正君

名村 泰藏君

高木 兼寛君

事業公債及鐵道公債特別會計法案外八件特別委員

公衛二條 基弘君

子爵堀田 正養君

加藤 弘之君

菊池 大麓君

木下 廣次君

子爵曾我 祐準君

子爵內藤 政共君

外山 正一君

男爵南岩倉具威君

田中源太郎君

男爵吉川 重吉君

山 脇 玄君

小幡篤次郎君

子爵鍋島 直彬君

村田 保君

三宅 秀君

子爵山井 兼文君

長與 專齋君

小原 重哉君

男爵吉川 重吉君

山 脇 玄君

小幡篤次郎君

子爵岡部 長職君

三好 退藏君

男爵小澤 武雄君

伊澤 修二君

菅野傳右衛門君

子爵山井 兼文君

長與 專齋君

小原 重哉君

子爵久世 通章君

成川 尙義君

富田鐵之助君 馬屋原 彰君 高橋 新吉君
○議長(公衛近衛篤磨君) 次會ノ日程ハ追ッテ御報道致シマス今日ハ散會
午前十一時四十分散會

貴族院議事速記錄正誤

頁	段	行	誤	正	頁	段	行	誤	正
六四	上	一九	千二	二千	一四三	上	三七	史	記
六四	上	二四	五萬	五千萬	一四三	上	四〇	守	介
六四	下	二八	何	何百	一四三	上	四〇	料	陵
九〇	下	三四	一億何	一百億	一四四	下	二八	後	行
九〇	下	三六	マデハ	ハ	一四四	下	二八	案	帝
九〇	下	三六	スル	シタ	一四五	下	三七	御陵	室
一四三	上	三六	先皇墓陵史	前王廟陵記					

